ご注意：本書は正式な取り扱い説明書ではありません。

　本書は取り扱い説明書から注意文など製品の操作方法について直接関係のない部分や余白などを削除、修正したもので、操作方法が分からなくなったが説明書が手許にないとか、製品に興味があるが操作方法はどのようになっているのか先に知りたい、といった目的のために無償でご提供しています。正しくお使い頂くためには必ず製品に同梱されている説明書をお読み下さい。又、本書が完全な説明書では無いことに対するクレームは一切お受け致しませんので、予め御理解ください。

　１：正式な説明書は無線機販売店でご購入いただけます。詳しくは下記の弊社ウエブサイトをご参照ください。http://www.alinco.co.jp/denshi/14.html

　２：アマチュア無線機の場合、無線局免許状の書き方は申請書式や技適基準改正により変更になっているものがたくさんあります。http://www.alinco.co.jp/denshi/10.html　に技適番号やデジタルモード（音声・パケット）に関する情報を掲載しておりますので、合わせてご確認ください。

　３：本書に記載の付属品・オプションアクセサリー・定格などは予告無く変更されているものがあります。最新の情報は弊社ホームページに掲載されています。

その他、動作や操作に関する良くあるお問い合せは：
http://www.alinco.co.jp/denshi/11.html　のＦＡＱページをご覧ください。

アルインコ（株）電子事業部

アルインコ株式会社 電子事業部

東京営業所	〒103-0027	東京都中央区日本橋2丁目3番4号日本橋プラザビル14階	☎03-3278-5888
大阪営業所	〒530-0004	大阪市北区堂島浜1丁目2番6号 新ダイビル9階	☎06-4797-2135
福岡営業所	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号第3博多偕成ビル7階	☎092-473-8034

お買い上げの販売店または、フリーダイアル 0120 0120-464-007

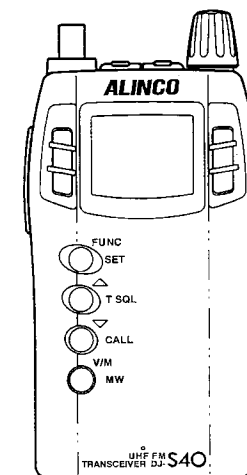
全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間／10:00～17:00月曜～金曜(祝祭日は除きます)

PS0385

ALINCO

UHF FM TRANSCEIVER

DJ-S40

取扱説明書

アルインコFMトランシーバーをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機の性能を充分に発揮させるために、この取扱説明書を最後までお読みいただくようお願いいたします。アフターサービスなどについても記載していますので、この取扱説明書は必ず保存しておいてください。

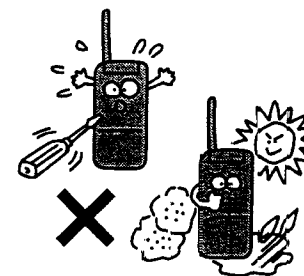
本機は日本国内専用モデルですので海外では使用できません。この無線機を使用するには、総務省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

アルインコ株式会社

目次

ご使用の前に必ずお読みください

■ご使用上の注意

- ケースを外して内部に手を触れないでください。故障の原因になります。
- 直射日光の当たる場所、ほこりの多い所、暖房器具の近くなどでのご使用、および保管はしないでください。
- テレビ、チューナーなど他の機器に影響を与える場合には、距離を離してご使用ください。
- 付属のアンテナは完全に取り付けてお使いください。
- 外部電源には必ず専用のアクティブフィルター付きシガーライターケーブル（EDC-36）をお使いください。
- ハイパワーで長時間送信し続けますと、機器が過熱します。お取り扱いには十分注意してください。
- 万一、煙が出たり、異臭がする場合は、電源スイッチをすみやかに切ってください。
  安全を確かめた上で販売店、または最寄りの当社サービス窓口へご連絡ください。

■電波の発信前にお気を付けていただくこと

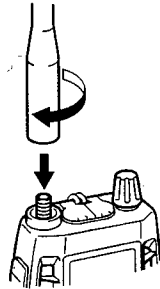
ハムバンドの近くでは、多くの業務用無線局が運用されています。これらの無線局近くでの電波発信にはお気を付けてください。
アマチュア無線局が電波法令を遵守していても思わぬ電波障害が起きることがあります。
移動運用の際には十分なご配慮をお願いいたします。

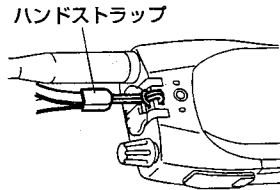
2. 付属品

2-1 付属品の取り付け・取り外しかた

2-1-1 アンテナ

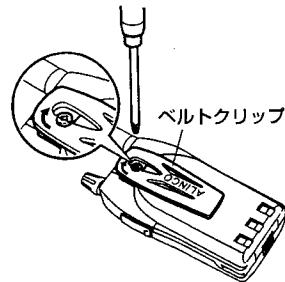
1. アンテナの根元を持ち、時計方向（右）にゆっくりと回します。
回転が止まりましたら確実に取り付けたことを確認してください。

2. 取り外すときは、アンテナを反時計方向（左）にゆっくりと回します。

2-1-2 ハンドストラップ

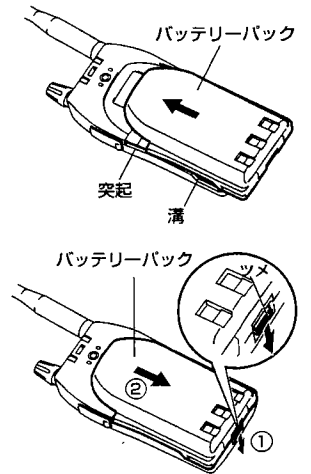
1. ハンドストラップを本体上後面部の穴に、図のように取り付けます。

2-1-3 ベルトクリップ

1. ベルトクリップを本体背面の図の位置に置きます。

2. ネジを時計方向（右）に回します。
回転が止まりましたら確実に取り付けたことを確認します。

3. 取り外すときは、ネジを反時計方向（左）に回します。

2-1-4 バッテリーパック

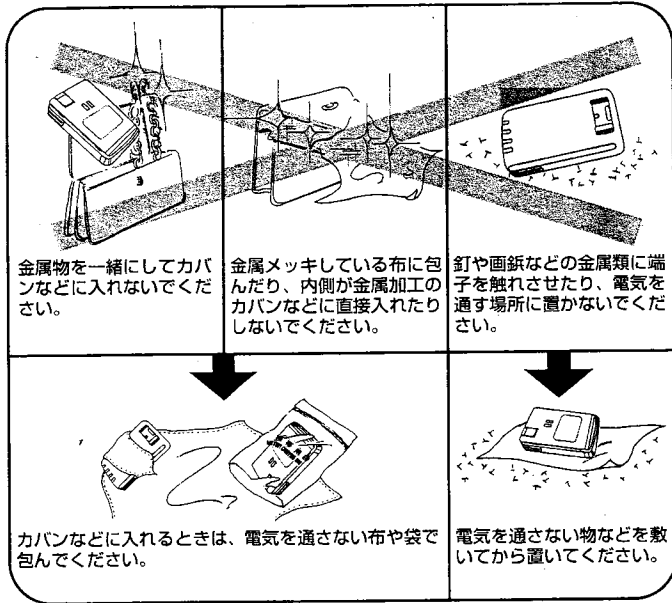
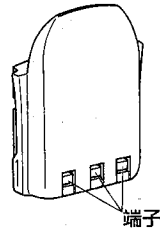
1. バッテリーパックの溝を本体の突起に合わせ、矢印の方向にスライドさせて押し込みます。
カチッと音がするまで押し込んでください。

2. 取り外すときは、本体下部のツメを押し下げ、矢印の方向にスライドさせて引き抜きます。

⚠ 注意

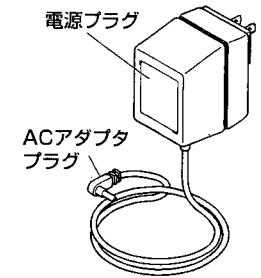
- 本機は出荷時には充電されておりません。充電してからご使用ください。
- 本バッテリーをEDC-92で充電するときは最大約10時間が必要です。
- 充電は0℃～40℃の温度範囲内でおこなってください。
- バッテリーパックの改造、分解、火中、水中への投入は危険ですからしないでください。
- バッテリーパックの端子は絶対にショートさせないでください。機器が損傷したり、バッテリーの発熱による火傷の恐れがあります。
- 必要以上の長時間の充電（過充電）はバッテリーの性能を低下させますので避けてください。
- バッテリーパックの保存は、－20℃～＋45℃の範囲で、湿度が低く乾燥した場所を選んでください。
  それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、バッテリーの漏液や、金属部分のサビの原因になりますので避けてください。
- 通常の使用で約500回の充電が可能ですが、所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は、寿命がつきたものと思われます。新しいものにお取替えください。
- ご使用済みのバッテリーパックは、環境保護のため燃えないゴミといっしょに捨てないでください。当社サービスに相談する、または電池回収協力店へご持参ください。
- 本バッテリーは本機に装着し、DC電源ジャックに13.8VDCを接続したあと、本機を充電ONに設定すると充電することができます（7ページ）。

2-2 バッテリーのショート防止のご注意

バッテリーパックを持ち運ぶときには、端子をショートさせないように注意してください。

大容量の電流が流れ、火傷や火事を起こす危険があります。

2-3 普通充電器 EDC-92 充電方法

1. バッテリーパックを本体に装着します。
2. AC アダプタープラグを本体のDC 電源ジャックに接続します。
3. 電源プラグをコンセント（AC 100V）へ差し込みます。
4. 本機を充電 ON に設定します。

(23 ページ充電機能参照)

⚠ 注意

- 普通充電器（EDC-92）で充電するときには、必ずトランシーバーの電源を"OFF"にしておいてください。
- 普通充電器（EDC-92）を使用しないときには、電源コンセントから外しておいてください。
- 他社製品の充電等には、絶対に使用しないでください。
- 充電時間はバッテリーパックの消費状態によって異なりますが、最大約10時間が必要です。
- 本機の充電端子を金属片等で短絡させたりすると、本機にダメージを与える場合があります。
- AC100V が著しく低下すると充電できないことがあります。
- 普通充電器（EDC-92）は外部 DC 電源にはなりません。

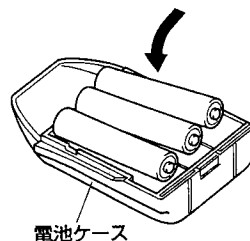
2-4 バッテリー充電時期の目安

・電池の残量表示は周囲温度や電池の使用頻度により多少異なることがあります。
・充電が必要な時期になってもLOW出力送信や受信のみであれば、さらに使用が可能です。
・バッテリーパックの種類を変えた場合は、必ずバッテリータイプの設定を変更してください（32ページバッテリータイプ設定参照）。

電池の残量が少なくなると、電池のマークが表示されます。充電してください。

2-5 電池のセット

1. 市販の単3型アルカリ乾電池3本を、電池ケース（EDH-31）にセットします。

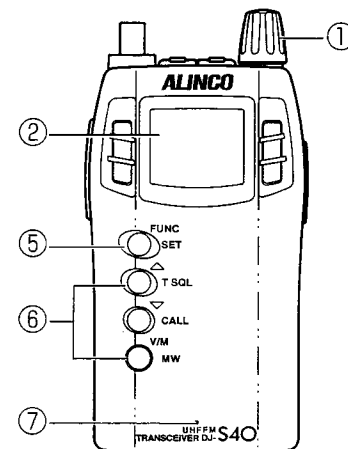
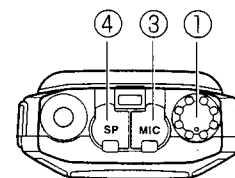
電池ケースの+、−の印に従ってセットします。

2. 電池ケースの取り付けはバッテリーと同様です（5ページ「2-1-4 バッテリーパック」参照）。

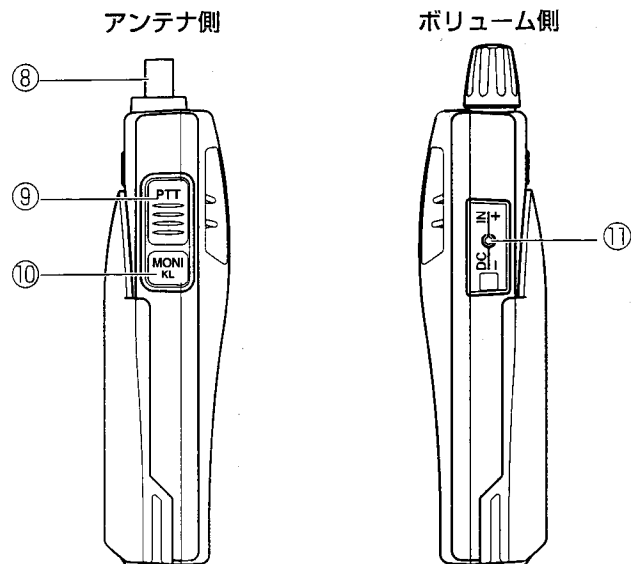
⚠ 注意

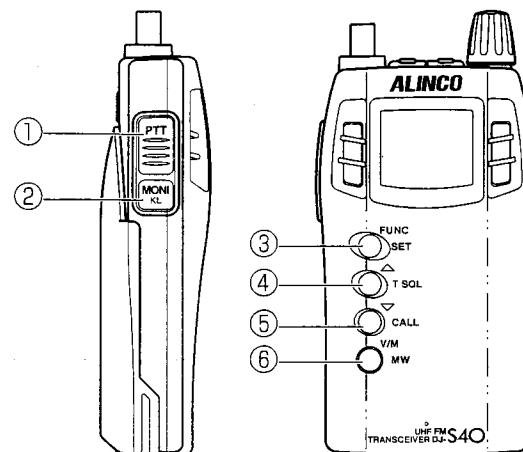
・マンガン電池は、特性上送信出力が下がりますのでお勧めできません。
・乾電池のセット方向（+−）を間違えないでください。
・乾電池を使用するときは必ず本機の充電機能をOFFにしておいてください。（23ページ充電機能参照）

3. 各部の名称と操作

3-1 本体の名称と動作

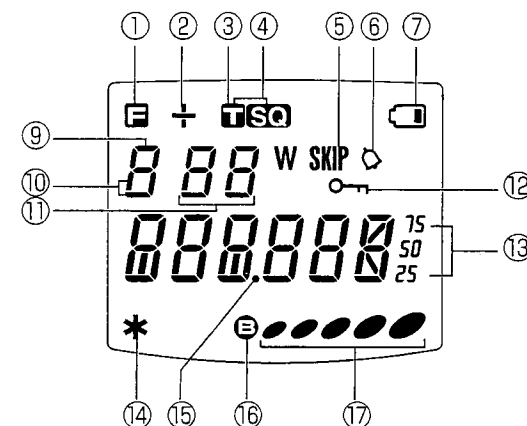
■上面部、前面部

No.	名称	機能
①	電源スイッチ ボリューム	約1秒間押すと電源のON/OFFができます。 回して音量を調整します。
②	ディスプレイ（LCD）	本取扱説明書の「ディスプレイ」を参照ください（13ページ）。
③	外部MIC端子	2.5φステレオプラグで外部マイク（2kΩ）を接続します。
④	外部SP端子	3.5φモノラルプラグで外部スピーカ（8Ω）を接続します。
⑤	FUNCキー	他のキーを組合わせることで様々な機能が使用できます。FUNCキーを約3秒間押すとセットモードに入り、各種設定ができます。
⑥	キーパッド	キー操作を参照ください（11ページ）。
⑦	マイク	マイクと口元は約5cm離してください。

■側面部

No.	名称	機能
⑧	SMA アンテナ コネクタ	付属のアンテナを取り付けます。 別売のアンテナを使用する場合はSWR（Standing Wave Ratio）の低いアンテナを選んでください。
⑨	PTTキー	押すと送信します。離すと受信に切り替わります。
⑩	MONIキー	押すとスケルチが開き受信音が聞こえます。トーンスケルチが設定されていてもスケルチは開きます。FUNC点灯中にこのキーを押すとキーロックされ、PTTキーを押しながらこのキーを押すとトーンコール信号を送信します。
⑪	DC電源ジャック	外部電源接続端子です。オプションのフィルター付きシガーライターケーブルEDC-36を接続し、車中で使用できます。ジャック極性はピン中央が＋極、外側が－極です。なお外部電源を使用する場合はDC4.5～DC16.0V 1A以上の安定化電源を使用してください。

3-2 キー操作

No.	名称	単独の操作	FUNCキーを押した後の操作
①	PTT	セットモード時、設定を確定します。	—
②	MONI	モニター機能に切替わります。	キーロック機能のON/OFFを切替えます。（40ページ）
③	FUNC/SET	FUNC機能に切替わります。	VFOモード時、1MHz単位で周波数の設定をします（15ページ）。
④	▲/T SQL	周波数、メモリーチャンネルがアップします。	トーンスケルチ機能の設定をします（35ページ）。
⑤	▼/CALL	周波数、メモリーチャンネルがダウンします。	CALLモードに切替えます（18ページ）。
⑥	V/M /MW	VFO/メモリーモードを切替えます。	メモリーの書込み（登録）をします（16ページ）。

No.	名称	キーを長く押した時	送信中の操作
①	PTT	押し続けている間は送信できます。	—
②	MONI	—	トーンコール呼出し機能（40ページ）
③	FUNC/SET	セットモードに入ります（21ページ）。	—
④	▲/T SQL	スキャンを開始します（38ページ）。	送信出力をHIGHに設定します（20ページ）。
⑤	▼/CALL	スキャンを開始します（36ページ）。	送信出力をLOWに設定します（20ページ）。
⑥	V/M /MW	—	—

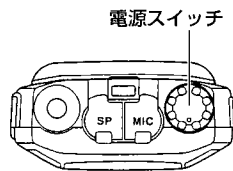
3

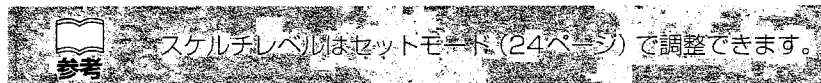
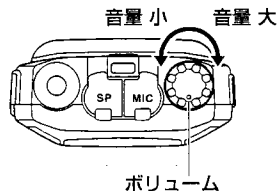
3-3 ディスプレイ

No.	名称	機能
①	F	FUNCキーを押すと点灯します。
②	÷	シフト方向（－／＋）を表示します。
③	T	トーンエンコーダ設定時に点灯します。
④	TSQ	トーンスケルチ設定時に点灯します。
⑤	W	メモリー書込みモード時に点滅します。
⑥	SKIP	スキャンスキップ設定チャンネル時に点灯します。
⑦	(ベル)	ベル機能設定時に点灯します。
⑧	(電池)	電池残量が少なくなると点灯します。
⑨	−	蚊除け音（MRS）ON時に点灯します。
⑩	L	送信出力がLOW時点灯します。
⑪	88	メモリーモード時のメモリーNo.、セットモード時の設定No.を表示します。
⑫	(鍵)	周波数及びキーロック設定時に点灯します。
⑬	888.888	送信・受信周波数や各設定内容などを表示します。
⑭	✱	盗難警報機能ON時に点灯します。
⑮	•	周波数やスキャン動作を表示します。
⑯	(B)	スケルチが開くと点灯します。
⑰	(Sメータ)	受信レベルと送信出力レベルを表示します。

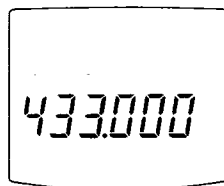
3

4. 基本的な使いかた

4-1 電源を入れる

電源スイッチを約１秒押すと電源が入ります。
電源を切るときは、もう一度電源スイッチを約１秒押します。

4-2 音量を調整する

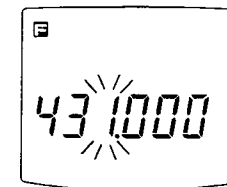
大きくするとき ：ボリュームを時計方向に回す。
小さくするとき ：ボリュームを反時計方向に回す。
また、スケルチが閉じて音声は聞こえないときは、MONIキーを押しながらボリュームを調整してください。

4-3 VFOモード

工場出荷後、最初に電源を入れたときに表示されるモードです。

VFOモード

4-3-1 周波数設定

▲/▼キーを押すと、設定されているステップで周波数が増減します。

■周波数を1MHzづつ増減させる

FUNCキーを押したあと、[F] 点灯中にFUNCキーを押すと、[F] が消灯し、ディスプレイの1MHzの桁が点滅します。
点滅中に▲/▼キーを押すと、周波数が1MHzずつ増減します。

4-4 メモリーモード

あらかじめ登録しておいた周波数や設定を呼び出して運用するモードです。
本機は99個のメモリーチャンネル（1～99CH）と1個のコールチャンネル（C）、および1個のアラーム用チャンネル（SC）を持っています。

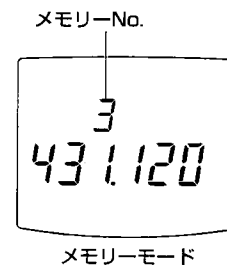
4-4-1 メモリーチャンネルの呼出し

1. **V/Mキーを押し、メモリーモードにします。**

V/Mキーを押すごとにメモリーモードとVFOモードが切り替ります。
メモリーモード：ディスプレイのメモリーNo. が点灯します。

メモリーモード

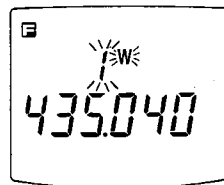
メモリーに何も登録されてない場合はメモリーモードにはなりません。

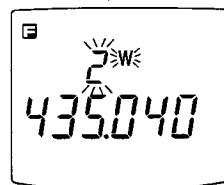
▲/▼キーを押すと、1チャンネルずつメモリーNo. が増減します。

4-4-2　メモリーチャンネルの登録

1. V/Mキーを押し、VFOモードにします。

VFOモード

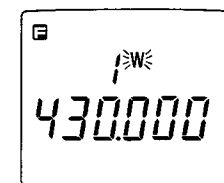
2. 登録したい周波数を選択し、必要に応じて各機能を設定します。

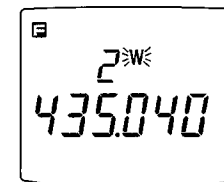
3. FUNCキーを押したあと［F］点灯中にV/Mキーを押します。
メモリーNo.と［W］が点滅します。

4. ▲/▼キーを押し、登録したいメモリーチャンネルを選択します。
メモリーが未登録のチャンネルは メモリーNo.が点滅します。

5. ［W］点滅中にMWキーを押します。
完了ビープ音が鳴り、選択されたメモリーチャンネルにVFO周波数が登録されます。

ご注意

- CH-SC（アラーム用チャンネル）には必ずアラーム用周波数を書き込んでください（44ページ）。
- 登録済みメモリーチャンネルを選択すると上書きされます。
- CALLチャンネルが選択されているときは、CALLチャンネルも書き変えられます。

4-4-3　メモリーチャンネルの消去

1. FUNCキー押したあと、[F] 点灯中にV/M キーを押します。
ディスプレイにメモリーNo.が点灯し、［W］が点滅します。

2. ▲/▼キーを押し消去したいメモリーNo.を選択します。
すでに登録されているメモリーチャンネルでは［メモリーNo.］が点灯しています。

3. 再度、FUNC キーを押したあと [F] 点灯中にMWキーを押します。
ビープ音が鳴り、メモリーが消去されます。

4-4-4　メモリー登録できる内容

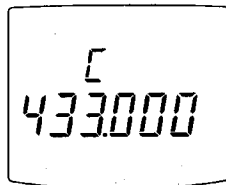
メモリーチャンネル1～99、SCおよびCALLチャンネルには、下記の内容をメモリーすることができます。

- 周波数
- シフト周波数
- シフト方向（+/-）
- トーン周波数
- トーンエンコーダ／デコーダ設定
- スキップCH設定
- ビジーチャンネルロックアウト（BCLO）

4-5 CALL モード

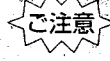
CALLチャンネルで待ち受けや呼出しをするときに使用します。本機には1個のCALLチャンネルがあります。
初期設定は433.000MHzになっています。

4-5-1 CALLチャンネルの呼出し

1. FUNCキーを押したあと［F］点灯中にCALLキーを押します。
CALLチャンネルが呼び出され、［C］がディスプレイに表示されます。

2. VFOモードまたはメモリーモードに戻るには、V/Mキーを押します。

・CALLモードではスキャンできません。
・CALLモードでは周波数やメモリーNo.をダイヤルで変更することはできません。

4-5-2 CALLチャンネルの変更

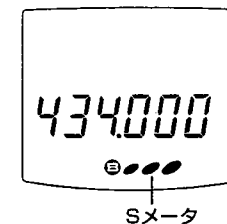
CALLチャンネルはメモリーチャンネルの一つとして割り当てられています。従って、CALL周波数およびその他の設定を変更する場合には、VFOモードで設定したあと、メモリーチャンネル［C］を呼び出して登録します（16ページ）。

CALLチャンネルは変更できますが消去できません。

4-6 受信するには

1. 電源スイッチをONします。

2. ボリュームを回し、適当な音量に設定します。

3. セットモードのスケルチ設定でノイズが消える状態に設定します。
（24ページ参照）。

4. 希望の周波数を選択します。
希望周波数で信号が受信されると、ディスプレイの［B］が点灯し、受信音声が聞こえます。この時受信電波の強度によりSメータも振れます。

4-6-1 モニター機能

・MONIキーを押している間中、スケルチの設定状態に関係なくスケルチ動作が解除され、スピーカから音が聞こえます。ディスプレイに［B］が表示されます。
・スレッショルドレベル以下の弱い信号を聞くことができます。
・トーンスケルチが設定されていてもモニターすることができます。

4-7 送信するには

1. **希望の周波数を選択します。**

2. **PTTキーを押しながら普通の声の大きさでMICに向かって話してください。**

Sメーターが点灯し、送信状態となります。
マイクロホンと口元の距離は約5cm離してください。

3. **PTTキーを離すことによって送信終了となり、受信状態に戻ります。**

PTTキーを押しながらMONIキーを押すとトーンコール信号が送信されます(トーンコールはセットモードで5種類の音色が選択できます)。
送信周波数範囲外でPTTキーを押すとディスプレイに[OFF]が表示されます。
この状態では送信することはできません(シフト設定時)。

4-7-1 送信出力の切り替え

送信中に▲/▼キーを押すと送信パワーが[HI]/[LOW]に切り替ります。
[LOW]パワー送信時はディスプレイに[L]が点灯します。
初期値はHIパワーとなっています。

LOWパワー時

HIGHパワー時

5. セットモード

DJ-S40では、セットモードを使用していろいろな機能を設定することができます。

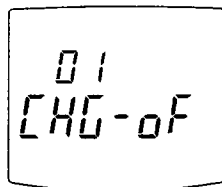
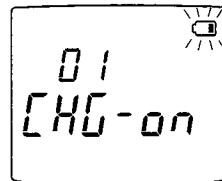
5-1 セットモード一覧

FUNCキーを押すとITEM No.が繰り上がり、MONIキーを押すとITEM No.が繰り下がります。

	ITEM NO.	初期表示	機能内容(▲/▼キーで選択)
	01	CHG-oF	充電機能をON/OFFします。
	02	Sql-07	スケルチレベルを設定します。
	03	StP-20	周波数ステップを設定します。
↑	04	SFd-oF	シフトする方向を設定します。
FUNCキー	05	5.000	オフセット周波数を設定します。
	06	bEP-on	ビープ音のON/OFFを設定します。
	07	ALt	コールトーン音の種類を設定します。
	08	to-oFF	TOT(タイムアウトタイマー)のON/OFF設定と時間設定(秒)をします。
	09	AP-oFF	APO(オートパワーオフ)のON/OFF設定と時間設定(分)をします。
	10	bS-on	バッテリーセーブON/OFFを設定します。
	11	bEL-oF	ベル機能 ON/OFFを設定します。
	12	Stb-oF	スタンバイビープ音のON/OFFを設定します。
MONIキー	13	bCL-oF	BCLO(ビジーチャンネルロックアウト)のON/OFF設定をします。
↓	14	StYP-t	スキャン動作のタイマー/ビジーを切替えます。
	15	m**-oF	メモリーチャンネルのスキャンスキップ設定をします。
	16	bAt-2	装着されたバッテリーのタイプを設定します。
	17	SCr-oF	盗難警報機能のON/OFFと種類を設定します。
	18	mrS-oF	蚊除け音送出のON/OFFを設定します。
	19	EPo-oF	外部端子制御のON/OFFを設定します。
	20	tonE-S	トーンスケルチ設定/レピーター機能を選択します。

5-2 セットモード設定方法

1. FUNCキーを3秒間以上押します。

表示が切り替わり、セットモードになります。

2. MONI キーまたは FUNC キーを押し、設定するメニューを選択します。

[01] 充電機能をONにする場合

3. ▲/▼キーで内容を設定します。

4. PTT キーまたは V/M キーを押します。

設定が確定し、通常表示に戻ります。

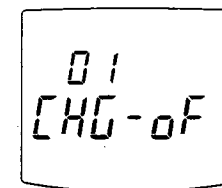
・[05] オフセット周波数設定時は V/M キーが MHz 帯の設定キーになります。
・次回からセットモードに入ると、最後に操作したメニューが表示されます。
・セットモード設定中は、モニター機能は動作しません。

5-3 セットモード

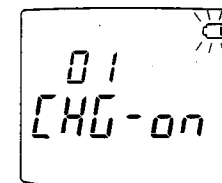
それぞれの機能について説明します。

5-3-1　充電機能

本機に付属のバッテリーパックを装着し、普通充電器EDC-92を接続しているときのみ、充電できます。

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。

2. ▲/▼キーを押すたびにON/OFFが切り替ります。

3. ON に設定すると充電を開始します。

充電中はディスプレイに電池マークが点滅します。

設定が ON の場合

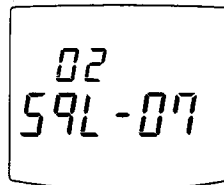
4. 電源を切ります。

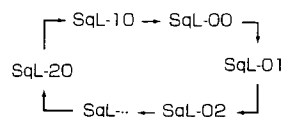
電源 OFF 時も電池マークは点滅します。

・単三乾電池装着時は絶対に充電しないでください。
・初期値は OFF ですので充電できません。

5-3-2　スケルチレベル設定

受信時信号のないときの"ザー"という雑音をなくす機能です。このレベルを設定します。

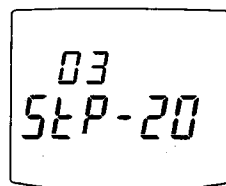
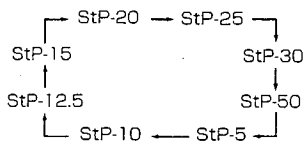
1. **ディスプレイに現在の設定が表示されます。**
初期設定は［07］です。

2. **▲/▼キーを押すたびに、表示が右のように切り替り、設定が変更されます。**
設定値を大きくするほど強い信号でスケルチが開くようになります。

SqL-10 → SqL-00 → SqL-01 → SqL-02 → SqL-··· → SqL-20 → SqL-10

5-3-3　周波数ステップ設定

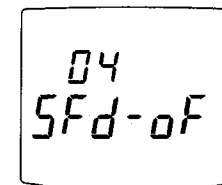
VFOモードのみの機能です。周波数ステップを変更することができます。

1. **ディスプレイに現在の設定値が表示されます。**
初期値は20kHzです。

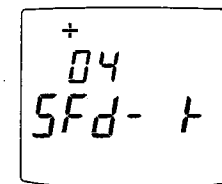
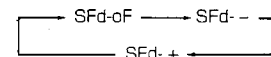
2. **▲/▼キーを押すたびに、表示が右のように切り替り、設定が変更されます。**

StP-20 → StP-25 → StP-30 → StP-50 → StP-5 → StP-10 → StP-12.5 → StP-15 → StP-20

5-3-4　シフト方向設定

送信周波数を受信周波数に対してオフセット周波数幅分シフトする機能です。

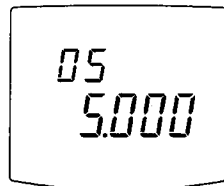
1. **ディスプレイに現在の設定値が表示されます。**
初期値は［OFF］です。

2. **▲/▼キーを押すたびに表示が右のように切り替り、設定が変更されます。**
ディスプレイの周波数表示上部にも［-］［+］が同時に表示されます。これはセットモード終了後も表示されます。

設定が＋の場合

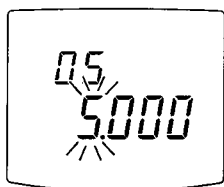
5

5-3-5　オフセット周波数設定

シフト設定された周波数幅を設定する機能です。
0～99.995MHz の周波数幅で設定できます。

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は 5.000MHz です。

05
5.000

2. ▲/▼キーを押すたびに周波数ステップを変更できます。
キーを1秒以上押し続けるとキーリピートします。

3. V/M キーを押すと 1MHz の桁が点滅し、▲/▼キーを押すたびに 1MHz づつ増減します。
キーを1秒以上押し続けるとキーリピートします。

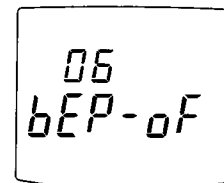
5

5-3-6　ビープ音設定

キー操作時に鳴るビープ音の ON/OFF を選択する機能です。

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期設定は［ON］です。

06
bEP-on

2. ▲/▼キーを押すたびに ON/OFF が切り替ります。

06
bEP-oF

設定が OFF の場合

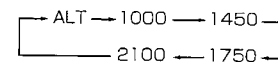
5-3-7　トーンコール音切り替え

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［ALT］です。

07
ALt

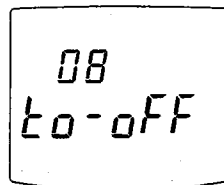
2. ▲/▼キーを押すたびに右のように表示が切り替り、設定が変更されます。
周波数表示の単位は Hz です。

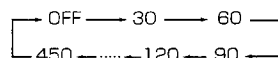
ALT → 1000 → 1450 → 1750 → 2100 → ALT

5

5-3-8　タイムアウトタイマー（TOT）機能

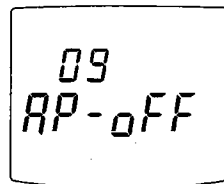
連続して送信できる時間を制限する機能です。設定された時間を超過した場合、タイムアップの10秒前にビープ音が鳴り、無線機は自動的に受信状態になります。この場合、一度PTTキーを離し2秒経過しないと次の送信はできません。

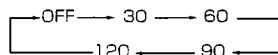
1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。

08
to-oFF

2. ▲/▼キーを押すたびにTOT時間が切り替り、設定が変更されます。
TOT時間は30秒から450秒まで、30秒単位で設定できます。

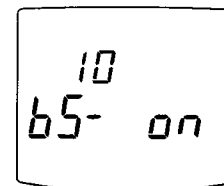
OFF → 30 → 60 → 90 → 120 …… → 450

5-3-9　オートパワーオフ（APO）機能

電源スイッチの切り忘れを防ぐ機能です。
APOが設定されているときに無操作の状態が設定時間続くと、ビープ音が鳴り、自動的に無線機の電源が切れます。

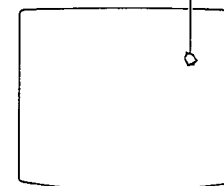
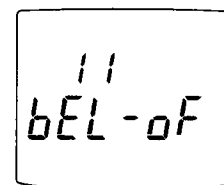
1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期設定は［OFF］です。

2. ▲/▼キーを押すたびにAPO時間が切り替り、設定が変更されます。
APO時間は、30分から120分まで、30分単位で設定できます。

OFF → 30 → 60 → 90 → 120

5-3-10 バッテリーセーブ機能

バッテリセーブ機能をONにすると、電池の無駄な消耗を防ぐためにキー操作をしない状態や、信号を受信しない状態が5秒間以上続くと受信回路の電源をOFFにします。

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［ON］です。

2. ▲/▼キーを押すたびにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。

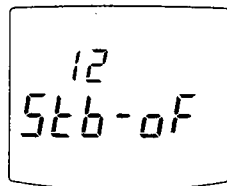
5-3-11 ベル機能

信号を受信したときベル音とディスプレイのベルマークの点滅で受信を知らせます。
応答のためPTTキーを押して送信するとベルマークは点灯に変わります。
5秒間以上、送信も受信もない場合、再度ベル機能が働きます。

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。

2. ▲/▼キーを押すたびにON/OFFが切り替り、設定が表示されます。

5-3-12 スタンバイビープ機能

送信終了時、PTTキーを離すとビープ音を送信して相手に送信終了を知らせます。

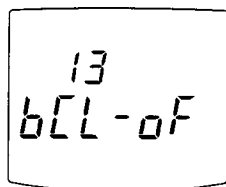
1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。

12
Stb-oF

2. ▲/▼キーを押すごとにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。

5-3-13 ビジーチャンネルロックアウト（BCLO）機能

受信状態に応じて送信を制限する機能です。
BCLOが設定されていると次の場合のみ送信が可能になります。それ以外では送信することができません。
① 信号が入感していない場合（[B］が消灯している状態）。
② トーンスケルチ設定状態でトーンが一致してスケルチが開いた場合。
※ 送信が禁止されている状態でPTTキーを押すとビープ音が鳴ります。
この時は送信されません。

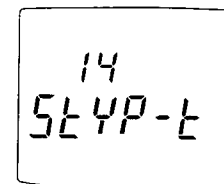
1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。

13
bCL-oF

2. ▲/▼キーを押すごとにON/OFFが切り替り設定が変更されます。

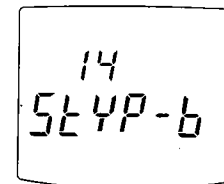
5-3-14 スキャンタイプ選択

タイマースキャンとビジースキャンを切り替えます（36ページ）。

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［t］（タイマースキャン）です。

14
StYP-t

タイマースキャン設定の場合

2. ▲/▼キーを押すごとにt/bが切り替り、設定が変更されます。
［t］はタイマースキャン［b］はビジースキャンです。

14
StYP-b

ビジースキャン設定の場合

5-3-15 スキャンスキップチャンネル設定

メモリースキャン時に、スキップさせるメモリーNo.を設定ます。
VFOモードやCALLモード時、メモリー登録がないときは設定できません。

1. ディスプレイに現在の設定が表示され、「SKIP」表示が点滅します。

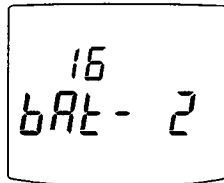
15 SKIP
m09-oF

メモリーNo.9の設定がOFFの場合

2. ▲/▼キーを押すたびにON/OFFが切り替り、設定が変更されます。
メモリー登録時、スキャンスキップは初期設定されません。
ただしアラームチャンネル（SC）は初期値でスキャンスキップ設定されています。

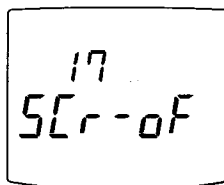
5-3-16 バッテリータイプ選択

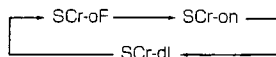
装着されているバッテリーのタイプを設定し、電池の残量表示の目安に使用します。
電池の種類を変更したときは、設定しなおしてください。
[bAt-1]:EBP-52N（Ni-MH電池3.6V500mAh）EBP-54N（Ni-MH電池3.6V1500mAh）EDH-31B（単三乾電池３本）
[bAt-2]:EBP-53N（Ni-MH電池6.0V500mAh）

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［bAt-2］です。

2. ▲/▼キーを押すごとにバッテリタイプが切り替り、設定が変更されます。

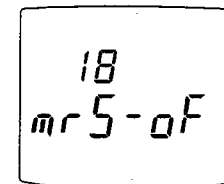
5-3-17 盗難警報（アラーム）機能

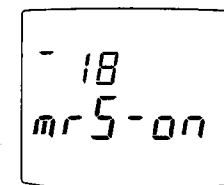
盗難警報音の詳細は43ページを参照してください。

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。

2. ▲/▼キーを押すごとに表示が右のように切り替ります。
［ON］か［dL］が設定されるとディスプレイに［＊］が点灯します。

SCr-oF → SCr-on → SCr-dL →

5-3-18 蚊除け音（MRS）機能

本機のスピーカから蚊の嫌がる超音波を発生させる機能です。

1. ディスプレイに現在の設定が表示されます。
初期値は［OFF］です。

2. ▲/▼キーを押すたびにON/OFFが切り替り設定が変更されます。
MRSを設定するとディスプレイの［￣］が点灯します。

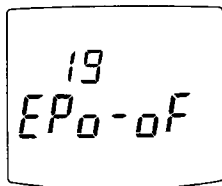
18
mrS-on

設定がONの場合

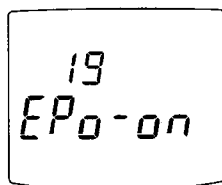
ご注意
・蚊には、およそ数千種類あり、効果のない蚊もあります。
・この機能をONに設定すると、常時超音波が発生するためにバッテリーセーブ機能は働かなくなります。

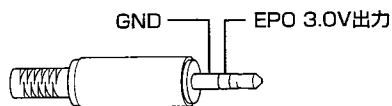
5-3-19 外部端子制御設定

スケルチ ON 時に外部 MIC 端子から 3V を出力する機能です。
信号を受信する（トーンスケルチ設定時はトーン一致）とMICステレオジャックから3.0V（5mA MAX）が出力されます。機器の制御等にご使用ください。

1. **ディスプレイに現在の設定が表示されます。**
初期値は［OFF］です。

19
EPo-oF

2. **▲/▼キーを押す毎にON-OFFが切り替り、設定が変更されます。**

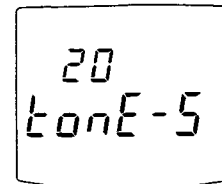
19
EPo-on

設定が ON の場合

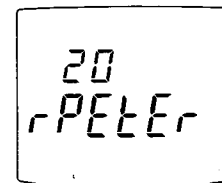
EPO-ON 設定時は、オプションのVOX付きマイク（EME-12,EME-13,EME-15）は使用できません。

2.5øステレオプラグ

5-3-20 トーンスケルチ／レピーター選択

FUNC キーを押しながら▲キーを押す操作を、トーンスケルチ設定とレピーター設定機能のどちらに割り当てるかを選択します。

1. **ディスプレイに現在の設定が表示されます。**
初期値は［TONE-S］（トーンスケルチ機能）です。

20
tonE-S

2. **▲/▼キーを押すごとに［tonE-S］-［rPEtEr］が切り替り、設定が変更されます。**
［rPEtEr］は、レピーター機能です。

20
rPEtEr

レピーター設定の場合

下のセットモード一覧表は切り取ってご使用ください。

セットモード一覧表

ITEM NO.	初期表示	機能内容
01	CHG-oF	充電ON/OFF
02	Sql-10	スケルチレベル設定
03	StP-20	周波数ステップ設定
04	SFd-oF	シフト方向設定
05	5.000	オフセット周波数設定
06	bEP-on	ビープ音ON/OFF
07	Alt	コールトーン音種設定
08	to-oFF	TOT時間設定（秒）
09	AP-oFF	APO時間設定（分）
10	bS-on	バッテリーセーブON/OFF
11	bEL-oF	ベル機能ON/OFF
12	Stb-oF	エンドピー機能ON/OFF
13	bCL-oF	BCLO ON/OFF
14	StYP-t	スキャン(タイマー/ビジー)切替え
15	m**-oF	スキャンスキップ設定
16	bAt-2	バッテリータイプ設定
17	SCr-oF	セキュリティ設定ON/OFF
18	mrS-oF	蚊除け音ON/OFF
19	EPo-oF	外部端子制御機能ON/OFF
20	TonE-S	トーン設定/レピーター設定

キリトリ線

6. 便利な機能

6-1 スキャン機能

自動的に周波数を変え、受信したい信号を探し出す機能です。
スキャンは受信できる信号が見つかると一時停止します。その後設定されている再開条件によってスキャンを再開します。

■スキャン再開条件

タイマースキャン機能：
　スキャン停止後、受信信号がなくなれば次のチャンネルに移る。また受信信号があっても５秒経過すると次のチャンネルに移る。
ビジースキャン機能：
　スキャン停止後、受信信号がなくなった時のみ、次のチャンネルに移る。
スキャン中は▲/▼キーでスキャン方向を変更できます。

6-1-1　VFOスキャン

VFOスキャンは、全受信周波数範囲をスキャンします。

1. V/Mキーを押し、VFOモードにします。

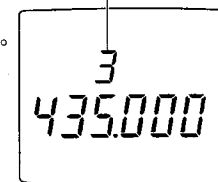
VFOモード

2. ▲/▼キーを１秒以上２秒以内押します。
ディスプレイの１MHzデシマルポイントが点滅し、スキャンを開始します。
▲キーでアップ、▼キーでダウン方向にスキャンします。

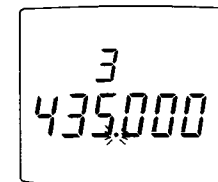
3. スキャンを止めるにはPTT、FUNC、V/Mキーのいずれかを押します。
MONIキーを押すと、押した間だけ一時停止しモニター動作をします。キーを離すとスキャンを再開します。

6-1-2　メモリースキャン

メモリーされているチャンネルのみをスキャンします。

1. V/Mキーを押し、メモリーモードにします。

メモリーモード

2. UP/DOWNキーを１秒以上２秒以内押します。
ディスプレイの１MHzデシマルポイントが点滅し、スキャンを開始します。
操作はVFOスキャンと同一です。

6

6-1-3　スキップチャンネル設定

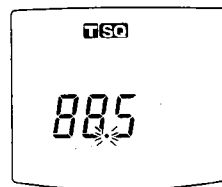
スキップチャンネルに設定されたメモリチャンネルは、メモリスキャン時にスキャンの対象から外されます。設定方法は31ページを参照してください。
スキップチャンネルが設定されたメモリチャンネルはディスプレイに［SKIP］が点灯します。
CALLチャンネルはスキップ専用チャンネルです。

6-1-4　トーンスキャン

受信しているトーン信号からトーン周波数を探し出す機能です。

1. **トーンスケルチ周波数設定状態で▲/▼キーを１秒以上２秒以内押します。**
トーンデシマルポイントが点滅し、スキャンを開始します。トーン周波数38波を順にをスキャンします。

トーン周波数が一致すればスキャンを停止し受信します。
スキャン停止後は再度▲/▼キーを押すまで再開しません。

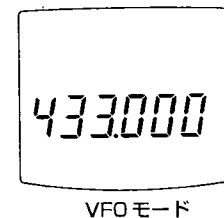
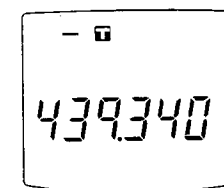
2. **スキャン停止後、PTT、FUNC、V/Mキーのいずれかを押すとスキャンモードが解除されます。**

6-2 レピーター機能

遠く離れた局とも交信できるように、ビル屋外や山頂にレピーター（自動中継局）が設置されています。このレピーターを中継すると送信出力が低くても遠い相手と交信できます。
レピーターを使用するには送信時-5MHzシフト、88.5Hzトーン付加を設定する必要があります。

■レピーターの運用

セットモードでレピーター設定を選択してください（35ページ）。
工場出荷時はトーンスケルチに設定されています。

1. **V/Mキーを押しVFOモードにします。**

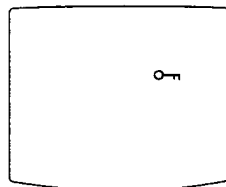
VFOモード

2. **FUNCキーを押し、[F]点灯中に▲キーを押します。**
ディスプレイに［－T］が点灯し、レピーターが設定されます。

3. **レピーターを解除するには、手順2で［－T］を消灯させせます。**

セットモードでトーンスケルチ機能に切り替えてもレピーター設定は解除されません。この場合、シフト設定とトーン設定で解除してください。

6-3 キーロック機能

誤ってキーを操作しても動作しないようにする機能です。

1. FUNCキーを押し、[F] 点灯中にMONIキーを押します。

[O━┐] が点灯し、キーロックが設定されます。

2. 解除するには再度、FUNCキーを押したあとMONIキーを押します。

参考　キーロック状態では、PTT、MONIキー以外のキー操作ができなくなります。
キーロック中でも送信とモニター操作は可能です。

6-4 トーンコール呼出し機能

送信電波にトーン信号を付加して、相手を呼び出す機能です。
PTTキーを押しながらMONIキーを押している間、トーン信号が送信されます。
トーンコールの音種はセットモードで選択できます（27ページ）。

ご注意　トーンENC信号と併用できません。トーンコール呼出し中はトーンENC信号は送出できません。

6-5 ランプ照明機能

暗い場所で使用する時などディスプレイの照明が点灯します。
PTT、MONIキー以外のキー操作をすると、5秒間ディスプレイの照明が点灯します。
MONIキーを押しながら電源を入れると、照明は常時点灯に変更されます。
いったん電源を切り、再度MONIキーを押しながら電源を入れると5秒間点灯に戻ります。

7. 選択交信機能

特定の局と交信する場合にトーンスケルチ（CTCSS）機能を使用します。
トーンスケルチとは交信時、自局で設定したトーン周波数と相手局の設定したトーン周波数が一致したときにスケルチが開き受信できる機能です。

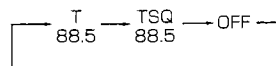
選択できるトーン周波数は次の38種類です。

No.	周波数	No.	周波数	No.	周波数	No.	周波数
1	67.0	11	97.4	21	136.5	31	192.8
2	71.9	12	100.0	22	141.3	32	203.5
3	74.4	13	103.5	23	146.2	33	210.7
4	77.0	14	107.2	24	151.4	34	218.1
5	79.7	15	110.9	25	156.7	35	225.7
6	82.5	16	114.8	26	162.2	36	233.6
7	85.4	17	118.8	27	167.9	37	241.8
8	88.5	18	123.0	28	173.8	38	250.3
9	91.5	19	127.3	29	179.9		
10	94.8	20	131.8	30	186.2		

トーンスケルチ運用には、セットモードでトーンスケルチを設定してください（35ページ）。

7-1 トーンスケルチ機能

1. **FUNCキーを押したあと、[F]点灯中に▲キーを押します。**
手順1を繰り返すたびにディスプレイの表示が右のように変わります。

T 88.5 → TSQ 88.5 → OFF

2. **▲/▼キーでトーン周波数を変更します。**

3. **PTT、V/Mキーを押すと設定を終了し通常表示に戻ります。**

[T] 点灯時 ：トーンENC（エンコーダ）設定トーン送信機能のみの動作です。
[TSQ] 点灯時 ：トーンENC/トーンスケルチ設定トーン送信とトーンスケルチ共動作します。
点灯なし ：設定しない状態です。

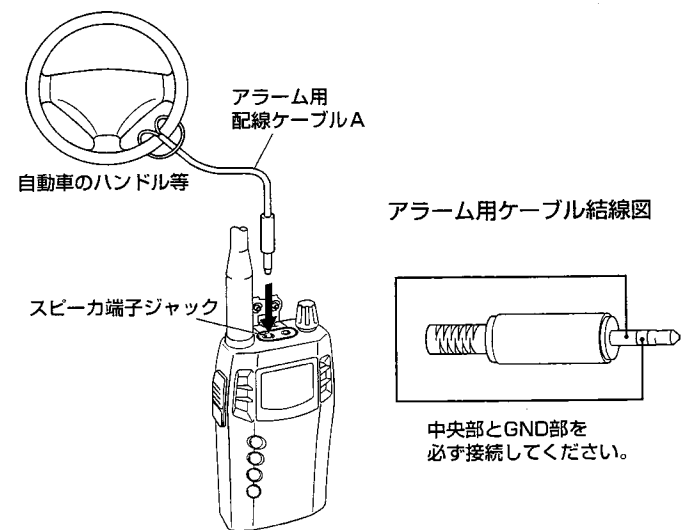
MONIキーを押すと、設定中でもモニター動作をします。

周波数の高いトーン周波数では、音声の周波数成分で誤動作することがあります。誤動作を少なくするためにも、必ず通常のスケルチも併用してください。

7

8. 特殊機能

8-1 盗難警報（アラーム）機能

本機が盗難されかかった時、スピーカから警報音を発生する機能です。
離れた場所や自動車に本機を設置する時にご使用ください。

⚠ 注意

当社のDR-135/435に付属されているアラーム用配線ケーブルA、Bは本機では使用できません（配線を変える必要があります）。

8

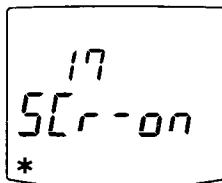
8-1-1　接続と設定方法

1. スピーカ端子ジャックに加工したアラーム用ケーブル付きプラグを差し込みます。

- 必ずアラーム用ケーブルは取り外せないように固定してください。
- アラーム解除のため、CH-SC（アラーム用）メモリーを登録しておいてください（16ページ）。
- CH-SC（アラーム用）は必ずスケルチを閉じた状態に設定してください。

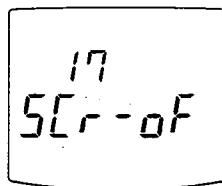
2. セットモードで[Scr-on]に設定します。

ディスプレイの［*］が点灯します。
(32ページ参照)。

17
SCr-on
*

3. 本体の電源スイッチを切ります。

アラーム設定がONになります。

4. アラーム設定を解除するには、電源をONにし、セットモードで[Scr-oF]にします。

17
SCr-oF

- 設定をONにするときは、必ずアラーム用ケーブルを接続してから電源スイッチをOFFにしてください。
- 電源をOFFしたあとにプラグを差し込むと、差し込みかたによってアラームが作動することがあります。

8-1-2　アラーム動作

ケーブルを抜くかケーブルが切断されると警報音が鳴り始めます。
アラームが作動（警報音発生）中は、電源スイッチを含む全てのキー操作ができません。
ただし、アラーム作動中はCH-SC（アラーム用チャンネル）の設定データで受信動作はしています。

■アラーム作動中のアラーム解除方法

アラーム作動中に本機が電波を受信してスケルチが開けば、アラームを解除し受信状態になります（受信設定はTSQ設定も有効です）。
離れた場所からでも別の無線機でアラームを解除することができます。

1. アラームを解除するには、電池パックを取り外します。

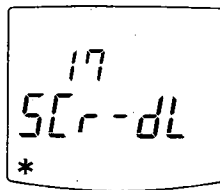
2. 再度、アラームを設定するには、電池パックを取り付け電源スイッチをOFFにします。

アラーム設定時は電池パックでご使用ください(外部電源の場合、アラームが鳴り続けます)。

8-1-3　アラーム動作開始時間の設定

機能の設定や、動作に待ち時間を持たせたいときに使用します。

1. セットモード [17] で警報機能を [SCR-dL] に設定します。

17
SCr-dL
*

2. アラーム用配線ケーブルのプラグを差し込み、本体の電源スイッチを切ります。

電源をOFFしたあと、10秒間はプラグが抜かれてもビープ音は発生しません。
アラーム設定ON中にケーブル付きプラグ等が抜かれた場合も10秒間経過してビープ音が鳴り始めます。

- CH-SC（アラーム用）の設定は、トーンスケルチの併用をお勧めします。アラーム作動時に一般電波を受信して解除される恐れがあります。
- 通常運用時は必ずアラーム設定を解除（SCR-OF）にしておいてください。
- CH-SC（アラーム用）メモリー登録のない場合は、VFOの設定で解除動作をします。

8

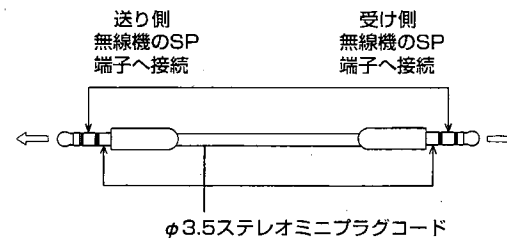
9. クローン機能・パケット通信

9-1　クローン機能

クローン機能とは、2台の無線機をケーブルで接続し、1台に設定している情報（メモリーデータを含む）を他（受け側）の無線機に転送してコピーする機能です。

■接続方法

図の様に、送り側および受け側の2台の無線機の外部スピーカ端子を市販のφ3.5ステレオミニプラグコードで接続します。
接続したら両機の電源をONにしてください。

ケーブルの接続は、必ず本体の電源をOFFにした状態で行ってください。

9

■データを送る側の操作

1. MONIキーを押しながらPTTキーを３回押します。

ディスプレイに「CLONE」が表示され、クローンモードになります。

CLonE

2. PTT キーを押します。

ディスプレイに「Sd　＊＊＊」と表示され、内部の設定情報をもう一方の無線機に転送します。

Sd 078

転送が完了したら、「PASS」と表示します。

「PASS」表示からPTTキーを押すと再度転送されます。
データが正確に転送されなかった場合はディスプレイに「PASS」は表示されません。再度手順１からやり直してください。

PASS

転送された場合

3. クローンモードを解除するには、電源を OFF にします。

ご注意

ケーブルが正確に接続されていない場合は、ディスプレイに「CHECK」と表示されます。
ケーブルの接続を再度確認してください。

■データを受け取る側の操作

1. 送信側からデータが送られてくるとディスプレイに「Ld　＊＊＊」と表示されます。

転送が完了したら、「Ld　078」と表示したまま転送完了します。
受信側ではデータが全て正確に転送されたかどうかわかりません。送信側の「PASS」表示で確認してください。

Ld 078

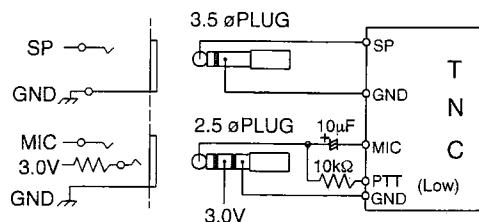
2. 本体の電源を OFF にします。

ご注意

- **データ転送中はケーブルを抜かないでください。**
- **クローン機能を使用してデータを転送すると、受け側のデータ内容はすべて送り側のデータ内容に置き換わってしまいます。受け側にデータがある場合は注意してください。**

9-2 パケット通信

パケット通信とは、パソコンとTNCを使用して送受信の操作をするデータ通信のひとつです。

■パケット通信の接続

内部の3Vラインから100Ωの抵抗を通して電圧が供給されます。

本機でパケット通信するときは、上記のように接続します。
パケット通信用TNC（付属装置：Terminal Node Controller）の各端子と接続するときは、本体上面部のSP端子に3.5 φプラグ、MIC端子に2.5 φの小型プラグを使用してください。

・入力レベルの調節：本機のMIC端子には入力レベルを調節する機能はありません。TNC側で入力レベルを調整してください。
・出力レベルの調節：SP端子からの出力レベルは本体側のボリュームで調節してください。

・TNCとパソコンなどとの接続方法は、TNCの取扱説明書に従ってください。
また、パソコン、TNC、本機との距離が近すぎると、ノイズが発生することがあります。その場合はできるだけ離してお使いください。
・パケット通信を行うときにはバッテリーセーブ機能をOFFにしてください。
・1200bps以下でご使用ください。

9

10. 保守・参考

10-1 リセット

リセットをすると、各種の設定内容が工場出荷時の初期値に戻ります。

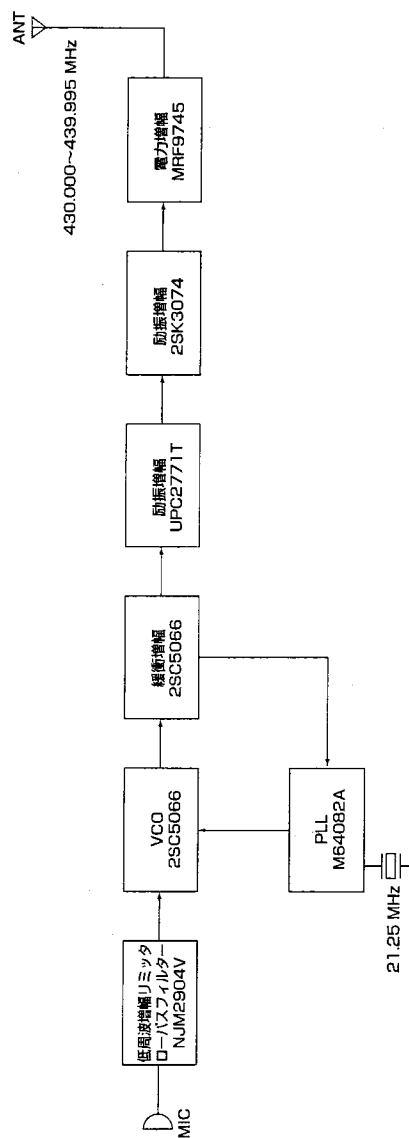
1. FUNCキーとV/Mキーを押しながら電源を入れます。

2. ディスプレイの表示が全て点灯している間に、FUNCキーを離します。
初期状態のVFOモードになります。

工場出荷時の初期値

DJ-S40	
VFO周波数	433.000MHz
CALL周波数	433.000MHz
メモリーチャンネル0〜99	空き状態
シフト設定	···
シフト周波数	5.000MHz
チャンネルステップ	20kHz
トーンスケルチ設定	···
トーン周波数	88.5Hz
送信出力	HI
キーロック設定	OFF
バッテリーセーブ	ON
スケルチレベル設定	07

10

10-5　送信機系統図

11.定格

一般	
周波数範囲	TX：430～439.995MHz RX：430～439.995MHz
電波型式	F3E(FM)
周波数ステップ	5、10、12.5、15、20、25、30、50 kHz
メモリーチャンネル	100チャンネル+1コールチャンネル
アンテナインピーダンス	50Ω（不平衡）
周波数安定度	±5ppm
マイクロホンインピーダンス	2kΩ
電源電圧	4.5～16.0VDC
消費電流	送信1.0W時：600mA 受信280mW出力時：150mA 受信スケルチ閉時：40mA 受信バッテリーセーブ時：15mA
使用温度範囲	－10～+60℃
接地方式	マイナス接地
寸　法	56（W）×102（H）×28（D）mm （EBP－53N装着時）
重　量	約160g（EBP－53N装着時）

送信部	
送信出力	約1W　EBP－53N装着時 約1.0W　外部13.8V時 約0.15W　LOW時
変調方式	リアクタンス変調
不要輻射強度	－60dB以下
最大周波数偏移	±5kHz
マイクインピーダンス	2kΩ

受信部	
受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン
受信感度	－14.0dBu（0.2uV）以下
中間周波数	1st IF：21.7MHz 2nd IF：450kHz
選択度	－6dB：12kHz以上 －60dB：28kHz以下
低周波出力	280mW以上（MAX） 200mW以上（10%歪み8Ω）

・定格は技術開発に伴い、予告なく変更することがあります。

充電時の注意

・充電中 または充電完了後、ＡＣアダプタープラグを一度抜くと次にプラグを差込んでも安全のためそのままでは充電しません。

・プラグを差し込んだ後、必ず無線機の**電源をＯＮ**にして充電中マーク（P23参照）を確認してから電源をＯＦＦにしてください。
（充電中は電源OFF後も充電マークは点滅しています）

PF0074